

共同研究プロジェクト 「南洋・オーストラリアの移民と国際関係」 〈中間報告〉

プロジェクト責任者 丹野 勲

本プロジェクト研究の研究成果として、代表者の丹野は以下の著書を出版した。

丹野勲（2017）『日本企業の東南アジア進出のルーツと戦略—戦前期南洋での国際経営と日本人移民の歴史』同文館。

丹野勲（2018）『戦前の南洋日本人移民の歴史—豪州、南洋群島、ニューギニア』御茶の水書房。

『日本企業の東南アジア進出のルーツと戦略』（同文館）は、明治維新から戦前昭和期までの日本企業の東南アジア・南洋進出と国際経営、および南洋日本人移民の歴史について研究した。本書の構成は以下のようになっている。「序章 日本の南洋進出の歴史的先駆—琉球の南洋貿易、朱印船貿易、南洋日本人町、「からゆきさん」と薬売行商」では、日本の南洋進出の歴史的さきがけであった中世の琉球の南洋貿易、中世から近世にかけての南洋との朱印船貿易と南洋の日本人町、明治維新直後の代表的な南洋進出である「からゆきさん」と薬売行商について論じた。「第1章 明治日本における海外移民、移住・殖民政策と南進論—南洋、南方アジアを中心として」では、明治期の日本の主に南洋・ハワイ等への日本人移民、移住・殖民政策、移民会社、および南洋進出の思想的基盤としての南進論・南進思想について論じた。「第2章 戦前期日本の南洋群島進出の歴史と戦略—南洋興発、南洋拓殖、南洋貿易を中心として」では、戦前期日本の委任統治領であったサイパン、ヤップ、パラオなどの南洋群島への日本企

業の進出について、日本人南洋移民も含めて、その国際経営の歴史と戦略という視点で論じた。「第3章 明治から戦前昭和期までの日本のアジア、南洋への企業進出と直接投資—東南アジア、中国、満州、台湾を中心として」では、戦前期南洋・東南アジアへの日本企業の企業進出と直接投資に関して、中国、満州、台湾と比較しながらその概要について考察すると共に、南洋への農業栽培、水産、林業、鉱業、商業、工業、銀行、海運等の企業進出について論じた。「第4章 戦前期日本の南洋・南方への商業的進出と貿易」では、戦前期日本の東南アジア・南洋への商業的進出と貿易について、薬売行商や商店の事例も含めて論じた。「第5章 戦前期日本の南洋・南方へのゴム栽培、農業栽培、林業、水産業進出の歴史と戦略」では、戦前期日本企業の東南アジア・南洋への直接投資を代表的するゴム栽培事業を中心として、その他の農業栽培事業、林業、水産業への投資と企業経営・戦略について論じた。「第6章 戦前期日本企業のフィリピン進出とダバオへのマニラ麻事業進出の歴史と戦略」では、戦前期の日本企業の南洋進出の1つの拠点であったフィリピンについて、ダバオへの太田興業や古川拓殖を中心としたマニラ麻事業進出、および日本企業の小売業・製造業への進出について、その歴史と戦略という視点から論じた。「第7章 戦前期日本企業の南洋・南方への鉱物資源投資—石原産業を事例として」では、戦前日本の東南アジア・南方への鉱物資源投資、特に代表的な南方進出企業で南洋財閥であった石原産業コンツェルンを中心として、戦前期の南洋・南方への日本企業の鉱物資源投資について、その歴史と戦略という視点から論じた。「終章 日本企業の南洋進出の歴史と国際経営」では、本書の結論として、戦前期日本企業の東南アジア・南洋進出の歴史と戦略という視点から論じた。

本書では、以上のような戦前期の日本企業の東南アジア・南洋進出について、歴史と国際経営という観点から研究した。研究方法としては、歴史的な文献・史料の収集・分析を中心として、最近の研究成果を加えて、アジア・南洋での現地調査も行った。本書は、事例研究を含む、明治維新から戦前昭和期までの日本企業の東南アジア・南洋進出について、歴史、南進論、移民・殖民論、海外投資、貿易、国際経営、経営史、東南アジア地

域研究など多様な視点からその全貌を解明した。

『戦前の南洋日本人移民の歴史』（御茶の水書房）は、明治維新から戦前昭和期までの豪州、南洋群島、ニューギニアといった、いわゆる南洋への日本人の移民、移住、海外出稼ぎの歴史について解明した。豪州では日本人移民の歴史について、クィーンズランド州への農業移民、および、木曜島、ブルームなどへの真珠貝採取移民を中心として論じた。南洋群島とニューギニアについては、その日本人移民史について主として日本人移民の人物に焦点を当てて論じた。南洋群島では日本進出の先駆者である横尾東作と森子弁、ニューギニアでは日本人移民の先駆者である小嶺磯吉と細谷十太郎を中心として論述した。以上のように、本書では、戦前期の南洋日本人移民の歴史について、人物を中心として、解明した。

本プロジェクト研究を通して、以下のように総括できるのではないかと考える。戦前日本は、貧しかったこともあり、戦前期日本において移民問題とは、日本人の海外への移民という、移民の送り出しという問題であった。しかし、戦後経済が成長し、日本が豊かな国になるにつれて、現在では、外国人の日本への移民や外国人労働者という、移民受入が問題となっている。世界史的に移民問題を考えると、移民の歴史は貧しい地域から豊かな地域への移民という動きであろう。日本も、このような文明的な観点に立つと、その大きな流れが理解できた。

共同研究者の杉田は、オーストラリアの移民政策の政治的動向について研究している。その目的で、昨年度と本年度にオーストラリアに出張し、現地調査を行った。その研究成果は、近年発表する予定である。